

# 川崎市の交通の現況

VOL. 1

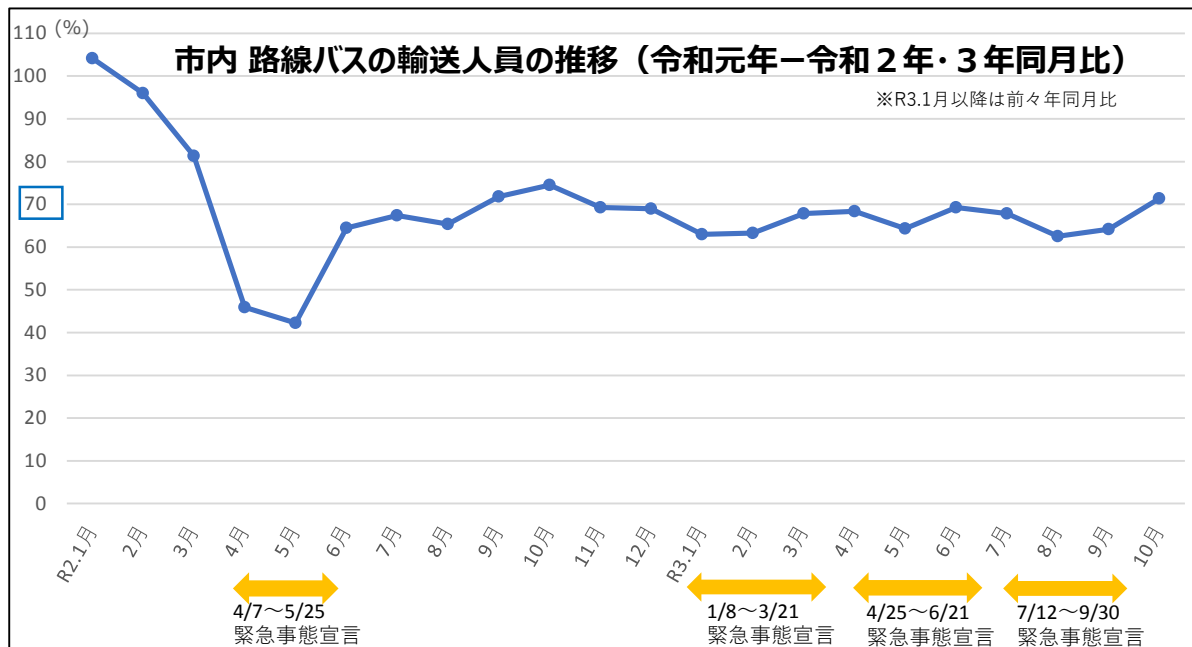
## 新型コロナウイルス感染症の交通機関への影響 ①





## 市内路線バスの輸送人員の推移

市内を運行する路線バスの輸送人員は、令和2年3月から落ち込みが見られ、令和2年4月7日～5月25日までの緊急事態宣言期間中には約40～50%と大幅に減少し、その後は約70%で推移しています。

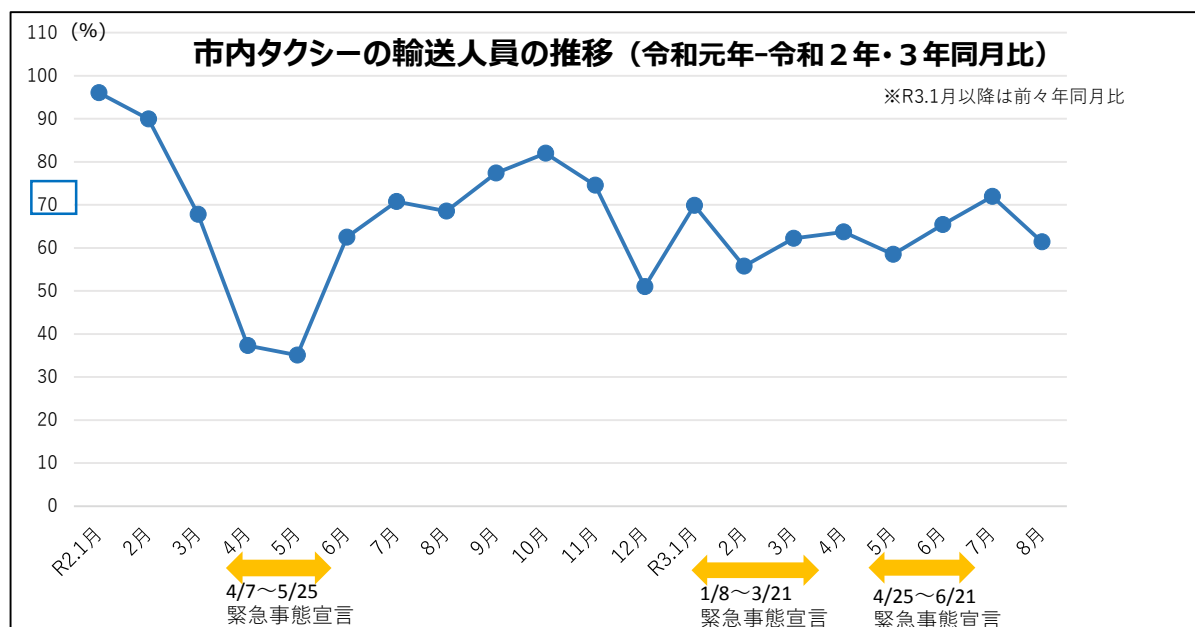


（各事業者提供資料に基づき作成）

## 市内タクシーの輸送人員の推移

市内を運行するタクシーの輸送人員は、令和2年4月7日～5月25日までの緊急事態宣言期間中に前年同月比で約30～40%と大きく落ち込みました。

令和2年7月から11月には70～80%まで回復しましたが、年末の繁忙期には約50%と落ち込みました。その後は約60～70%で推移しています。

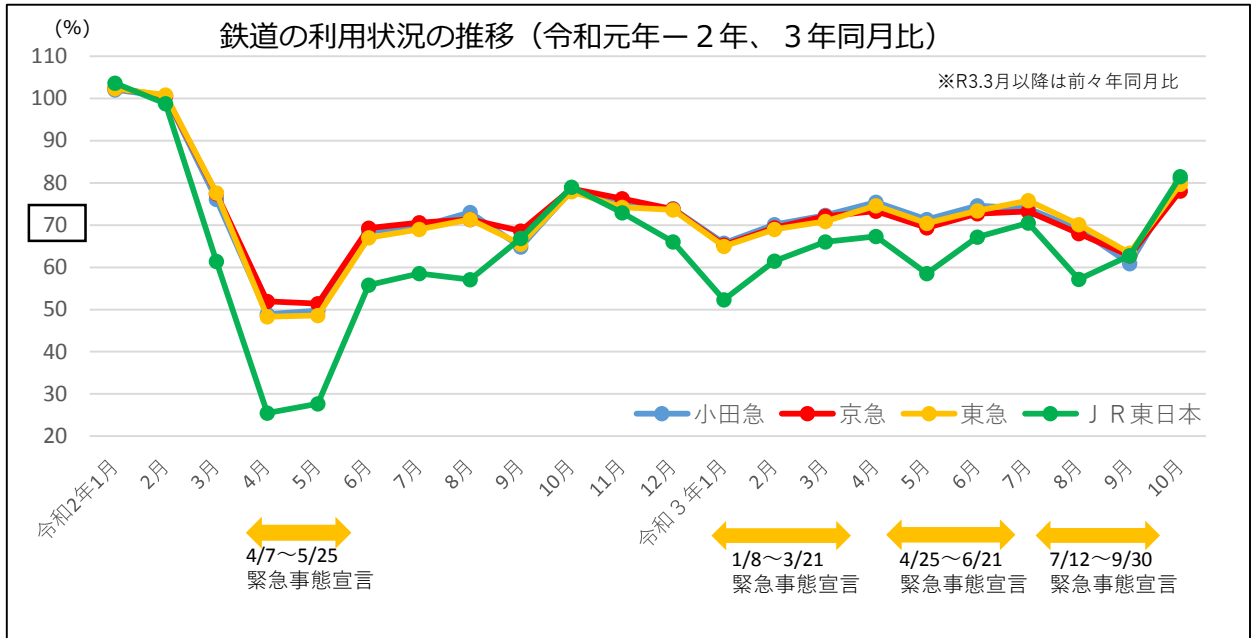


（神奈川県タクシー協会川崎支部提供資料に基づき作成）

## 鉄道の利用状況の推移

鉄道の利用は、令和2年3月から落ち込み、1回目の緊急事態宣言が発令された4月7日から5月25日までの期間に、東京都・神奈川県を営業区域とする小田急、京急、東急の各社は前年同月比約50%、東日本全域を営業区域とするJR東日本の在来線（定期外・近距離）は20%台に低下しました。

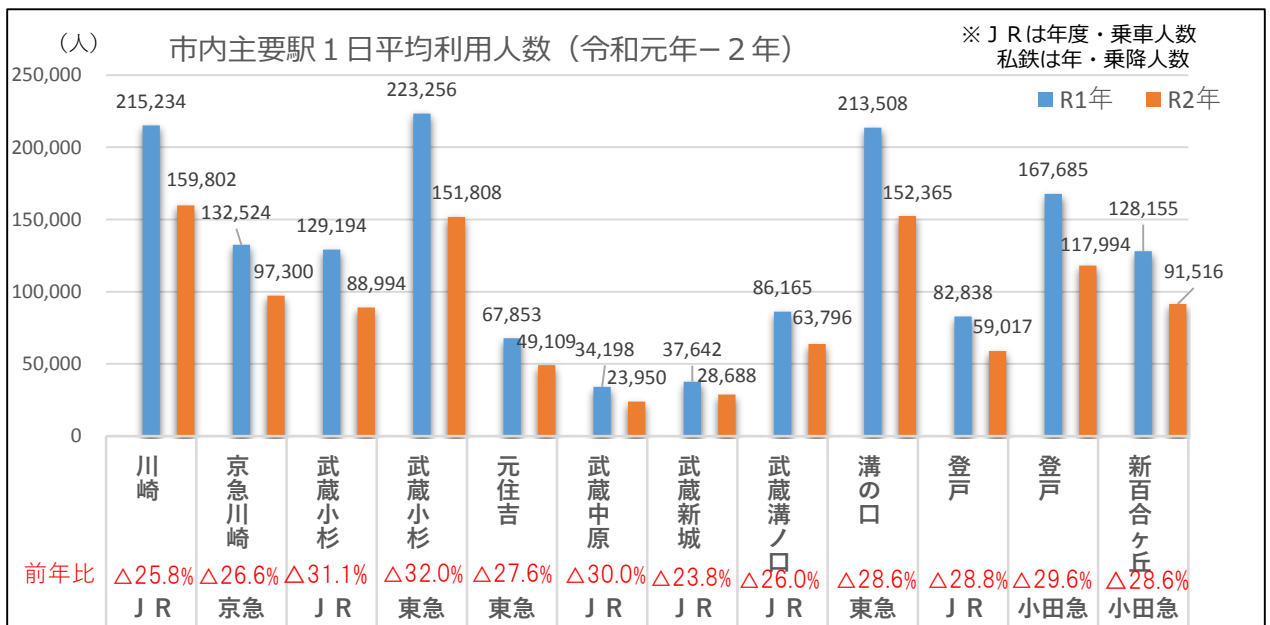
その後の利用状況は私鉄各社が約70%、JR東日本は繁忙期に減少が大きくなりますが、それ以外の月は約70%で推移しています。令和3年10月には、JR・私鉄各社とも感染拡大前と比べ、約80%の水準に戻ってきています。



（各社公表資料より作成 [私鉄各社は乗車人数、JRは在来線近距離・普通運賃収入ベース（定期を除く）]）

## 市内主要駅の利用人員

令和2年の市内主要駅1日平均利用人数は、感染拡大により大きく減少し、令和元年と比較して約70～80%の水準となっています。なお、JRは乗車人数を公表しているため、私鉄各駅の乗降人数の約半数の数字となっています。



（各社公表資料及び川崎市統計書 [令和元年度私鉄] より作成）

## 鉄道の混雑率

通勤通学時間帯の混雑状況を把握するため、国土交通省は毎年、混雑率調査を実施しています。

令和3年7月に発表された調査結果によると、令和2年度の三大都市圏の混雑率は、東京圏107%（令和元年度163%）、大阪圏103%（令和元年度126%）、名古屋圏104%（令和元年度132%）と、感染拡大の影響で大幅に低下し、特に東京圏の減少が大きくなっています。

川崎市域が調査対象となっている区間は、以下の3区間です。

### ① 南武線（武蔵中原→武蔵小杉）

幅広車両の導入やオフピーク通勤の取り組みにより、混雑率は減少傾向にありました。令和2年度は前年度の182%から120%と大幅に減少しましたが、3区間では一番高い値となっています。

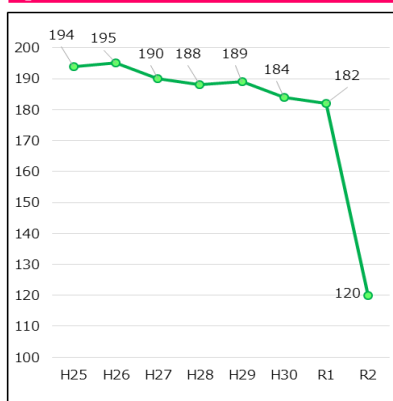
### ② 横須賀線（武蔵小杉→西大井）

感染拡大以前は混雑率が高く、横這いの状況でしたが、令和2年度は195%から117%と大きく減少しました。

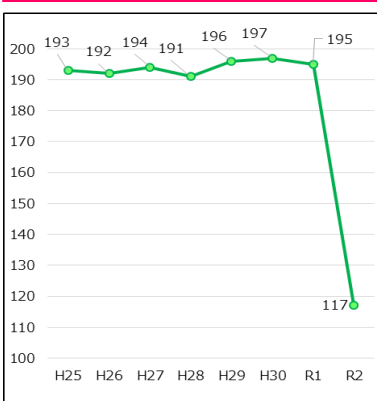
### ③ 東海道線（川崎→品川）

感染拡大以前は増加傾向にありましたが、令和2年度は193%から103%と大きく減少しました。

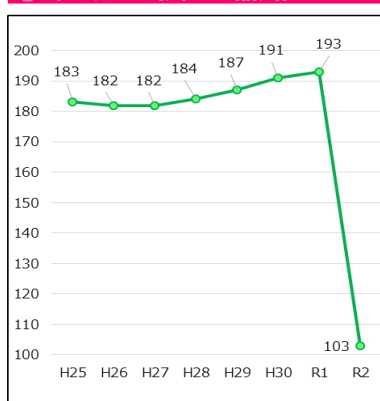
① 南武線（武蔵中原→武蔵小杉）



② 横須賀線（武蔵小杉→西大井）



③ 東海道線（川崎→品川）



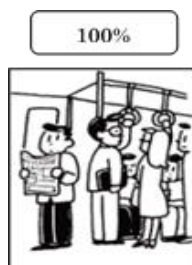
（国土交通省公表資料より）

### ○混雑率とは

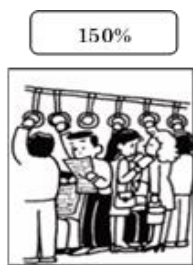
「輸送人員÷輸送力※」で算出される混雑度の指標をいいます。なお、混雑率の値は最混雑時間帯1時間の平均値です。

※輸送力：列車1本の収容人数×1時間の列車の本数

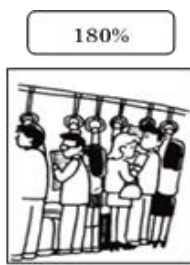
測定方法は各社で異なりますが、具体的な目安は以下のとおりです。



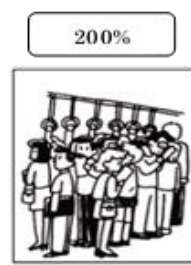
100%  
定員乗車



150%  
広げて楽に新聞を読める。



180%  
折りたたむなど無理をすれば新聞を読める。



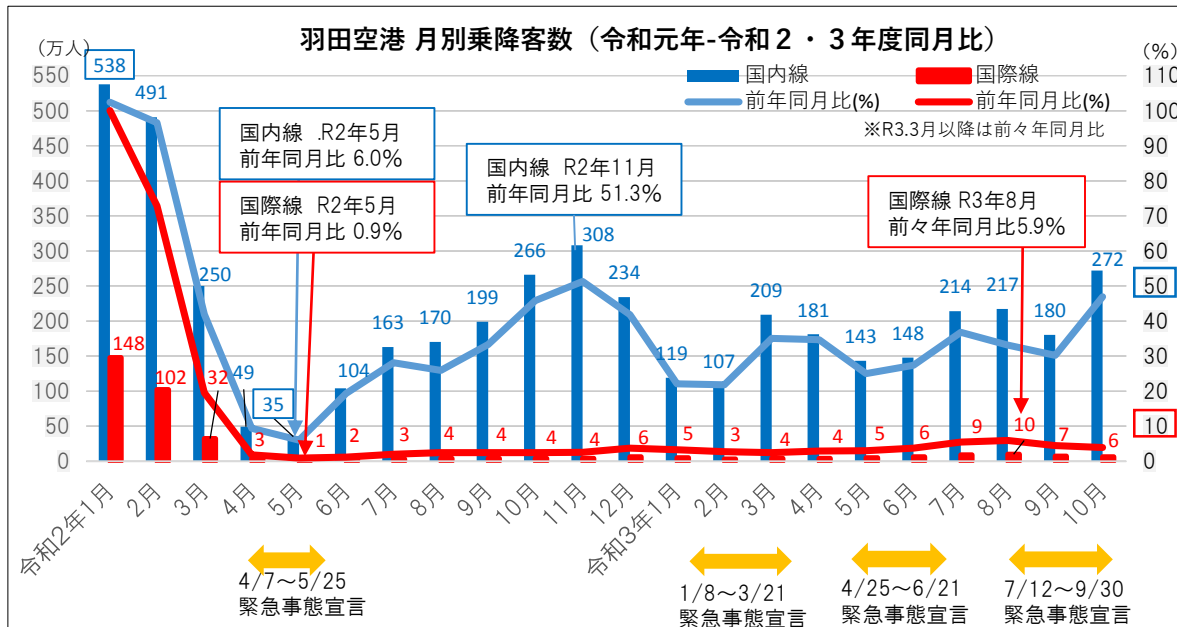
200%  
体がふれあい相当圧迫感があるが、週刊誌程度なら何とか読める。

（国土交通省公表資料より）

# 航空旅客の乗降客数

羽田空港の国内線の月別乗降客数は、感染拡大前の令和2年1月に538万人でしたが、5月には35万人と前年同月比約6%まで落ち込みました。11月には約50%まで回復しましたが、航空は長距離輸送であるため、近距離輸送のバスや私鉄と異なり、緊急事態宣言の発令と解除に連動して乗降客数の減少と回復を繰り返しています。

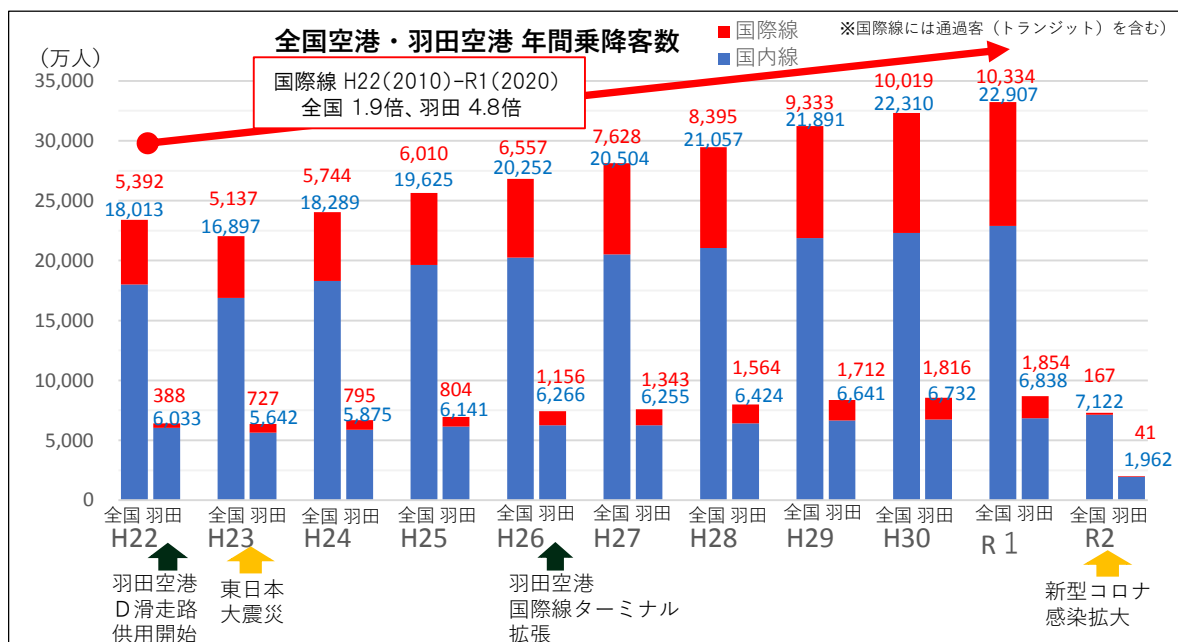
国際線については減便が相次ぎ、令和2年5月には前年同月比0.9%となり、その後も10%を下回る状況が続いています。



(国土交通省東京航空局「管内空港の利用概況集計表」より作成)

年間乗降客数は、東日本大震災による減少はありましたが、国内線・国際線とも増加してきました。特に国際線は訪日外国人の増加等により大きく伸び、令和元年までの10年間で約1.9倍になっています。また羽田空港においてはD滑走路の供用開始や国際ターミナルの拡張等に伴い、約4.8倍と大きく増加しました。

令和2年は感染拡大の影響により、前年度に比べ、国際線は全国1.6%、羽田2.2%、国内線は全国31%、羽田29%の利用状況となっています。



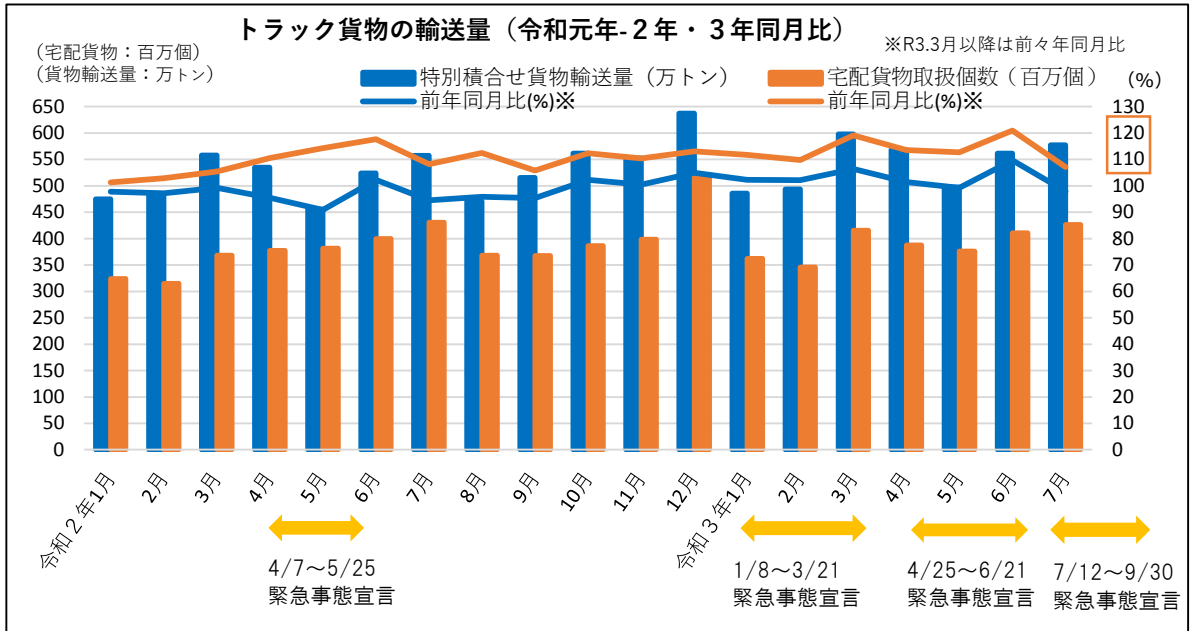
(国土交通省東京航空局「管内空港の利用概況集計表」より作成)

## トラック貨物の輸送量

国内貨物の総輸送量は、緊急事態宣言の発令に伴う生産低迷により減少しましたが、宅配貨物を含むトラック貨物(特別積合せ貨物)の輸送量については、個人消費の回復などにより、感染拡大前とほぼ同水準となっています。

特に宅配貨物取扱個数は、巣ごもり需要の増加等を背景に、感染拡大前より増加し、約110~120%の水準で推移しています。

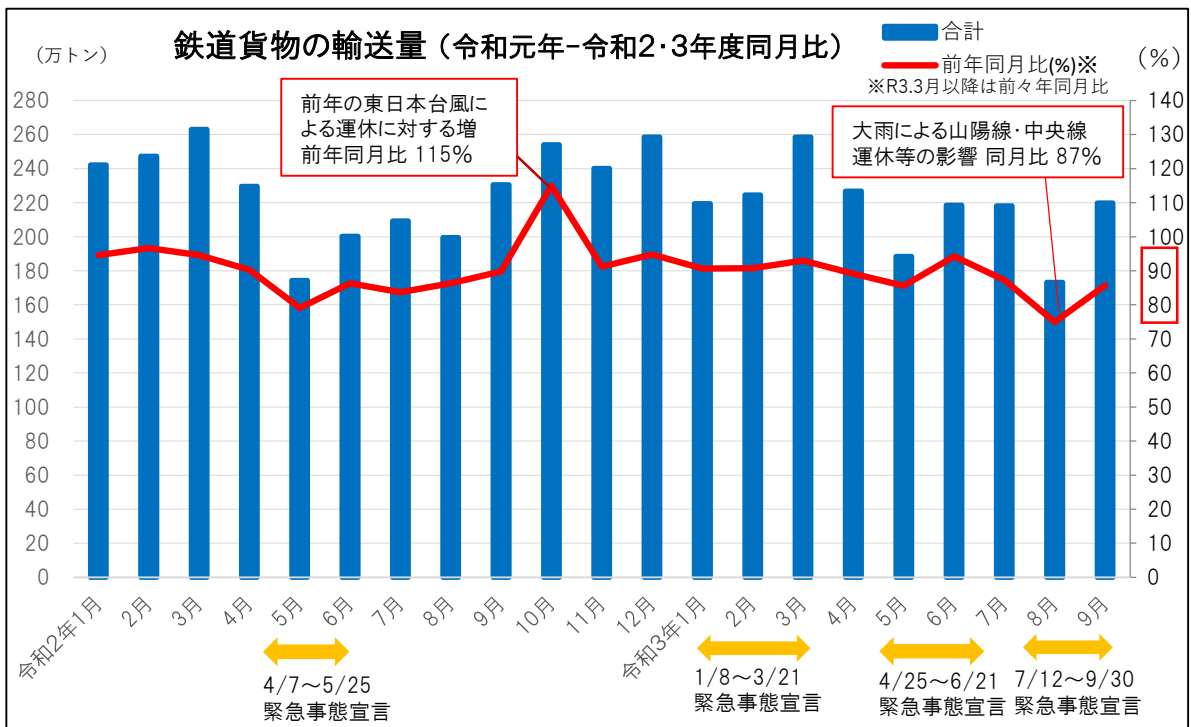
※特別積合せ貨物運送：複数の荷主の荷物を混載したトラック便（宅配貨物も含む）



(国土交通省「国土交通月例経済」より作成)

## 鉄道貨物の輸送量

鉄道貨物の輸送量は、生産低迷、外出自粛に伴うコンテナ輸送や石油輸送等の減少、令和3年8月の大雨に伴う山陽線（山口県）、中央線（岐阜県～長野県）等の運休などの影響により、約80~90%の水準で推移しています。



(国土交通省「国土交通月例経済」より作成)

# モビリティの変化

感染拡大に伴う外出自粛などにより人々の行動がどのように変わったかについてのデータから、公共交通機関の拠点となる「乗換駅」においては、全国、神奈川県とも感染拡大前の約25%減と差異はありませんが、「職場」においては神奈川県の減少率が全国より大きく、反対に「住宅」における増加率は全国より高くなっています。

このことから、神奈川県においては、全国よりもテレワークの実施率が高いことが推察されます。

実際に、アンケートによる都道府県別テレワーク実施率調査※からも、神奈川県は東京都に次ぐ、テレワークの実施率であるという結果が出ています。

【①東京都47.3% ②神奈川県42.0% ③千葉県35.6% ④埼玉県32.1% ⑤大阪府27.5%】

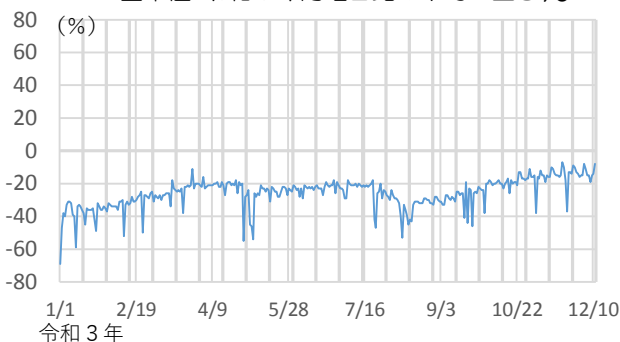
※出典：パーソル総合研究所「第五回・新型コロナウイルス対策によるテレワークの影響に関する緊急調査」(2021年7月31日～8月1日)

## 乗換駅

(対象:公共交通機関の拠点[地下鉄、バス、電車の駅など])

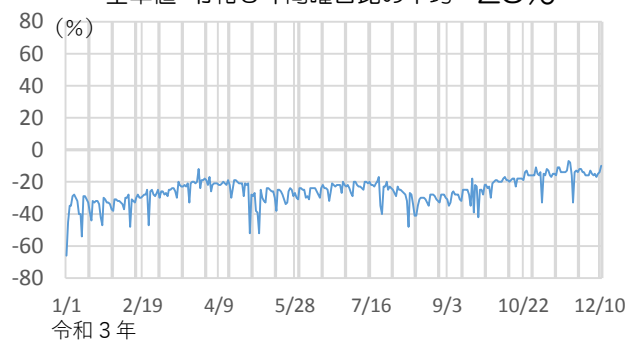
### 神奈川県

基準値-令和3年同曜日比の平均 -25%



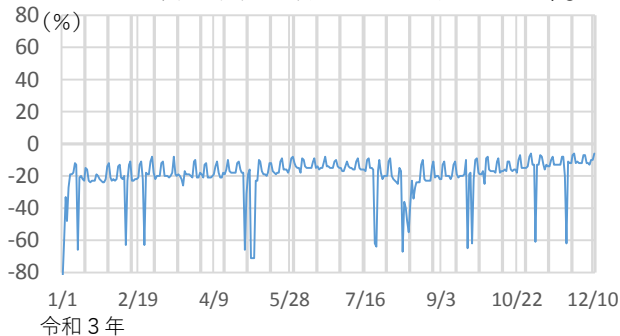
### 全国

基準値-令和3年同曜日比の平均 -25%



### 神奈川県

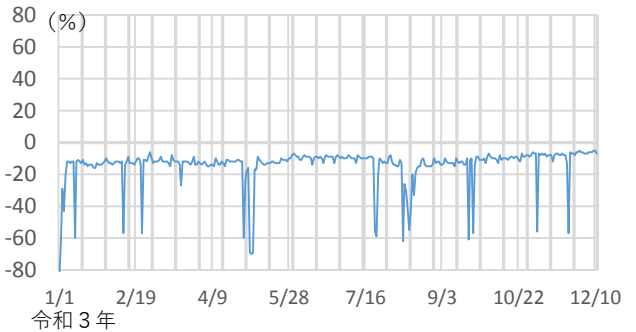
基準値-令和3年同曜日比の平均 -19%



## 職場

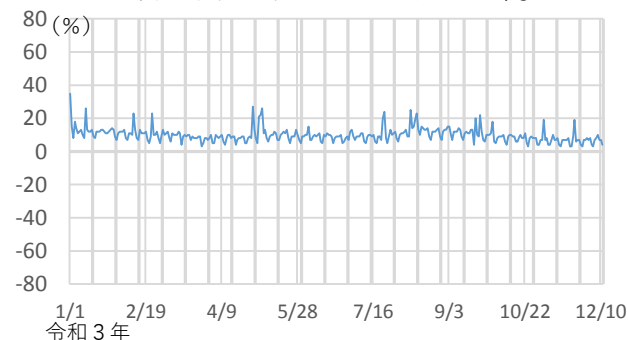
### 全国

基準値-令和3年同曜日比の比較 -14%



### 神奈川県

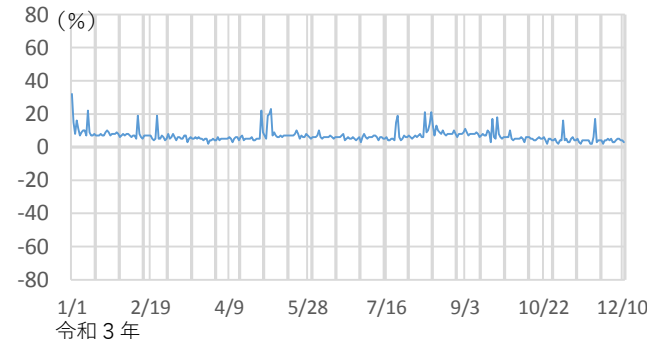
基準値-令和3年同曜日比の平均 +9%



## 住宅(住居)

### 全国

基準値-令和3年同曜日比の比較 +7%





Googleが公表しているデータを活用し、乗換駅や職場、公園、レストラン、食料品店などへの訪問者数の変化について、感染拡大前の令和2年1月3日～2月6日の5週間における曜日毎の中央値と令和3年1月1日～12月12日の同曜日の数値を比較したグラフを作成しました。

(Google COVID-19:コミュニティ モビリティ レポートより作成)

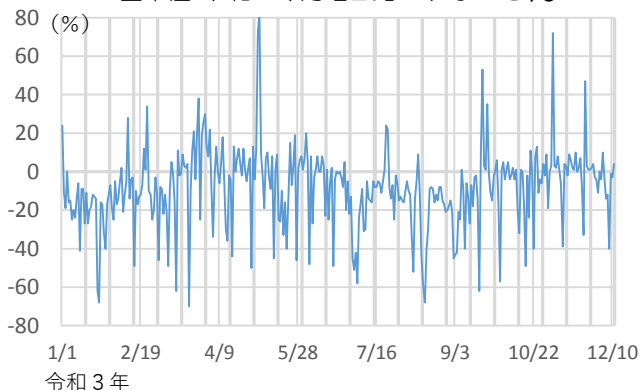
## 公園

(対象:国立公園、公共のビーチ、マリナー、ドッグパーク、広場、庭園など)

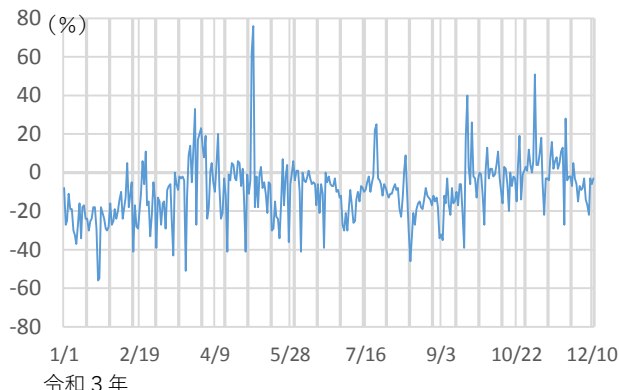
### 神奈川県

### 全国

基準値-令和3年同曜日比の平均 **-8%**



基準値-令和3年同曜日比の平均 **-9%**



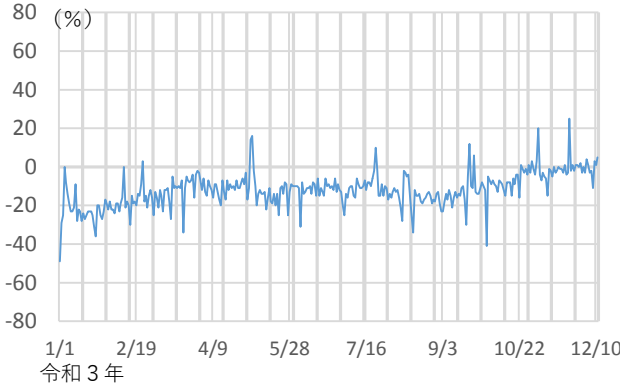
## 小売、娯楽業

(対象:レストラン、カフェ、ショッピングセンター、テーマパーク、博物館、図書館、映画館など)

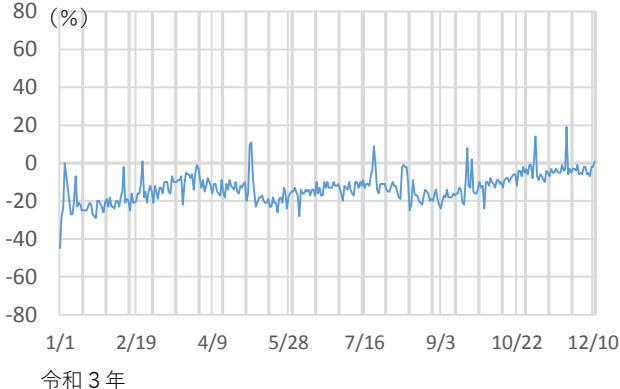
### 神奈川県

### 全国

基準値-令和3年同曜日比の平均 **-11%**



基準値-令和3年同曜日比の平均 **-12%**



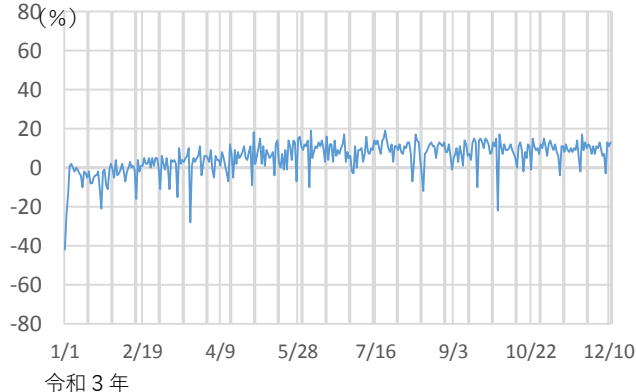
## 食料品、薬局

(対象:食料品店、食品問屋、青果市場、高級食料品店、ドラッグストア、薬局など)

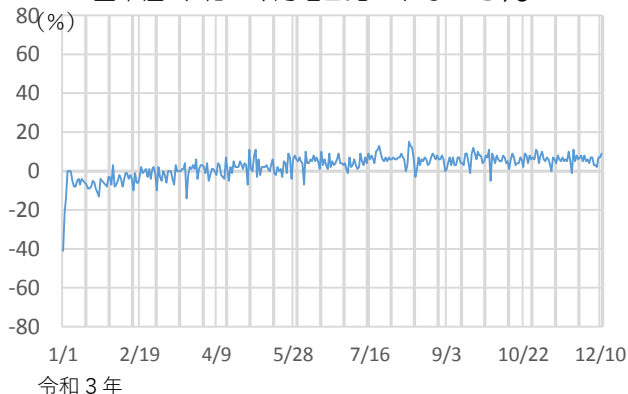
### 神奈川県

### 全国

基準値-令和3年同曜日比の平均 **+5%**



基準値-令和3年同曜日比の平均 **+3%**

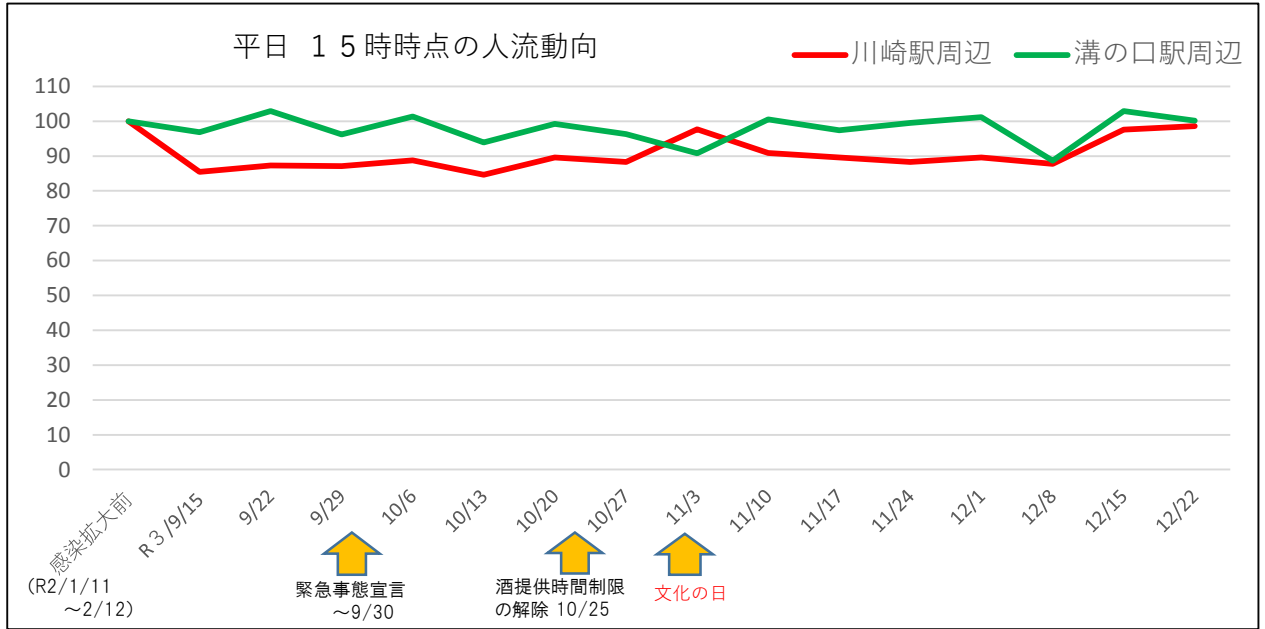


## 駅周辺の人流動向

公表されているモバイルデータを活用し、川崎駅及び溝の口周辺の人流動向を感染拡大前（令和2年1月11日から2月12日の平均値）と比較しました。

### ○平日・昼間（15時）

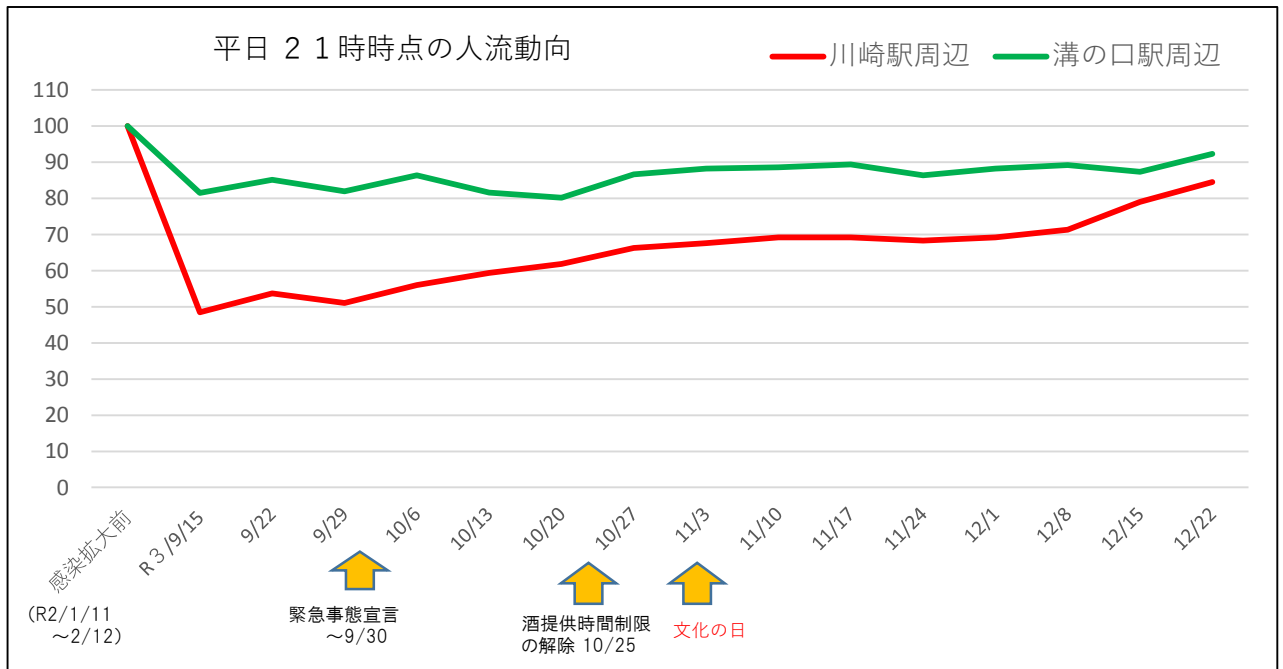
- ・川崎駅周辺……80%台後半～90%で推移していたが、年末には感染拡大前の平均値に近い数字となっている
- ・溝の口駅周辺……ほぼ100%で、感染拡大前を超える日もある



### ○平日・夜間（21時）

昼間は川崎駅周辺と溝の口駅周辺で10%程度の差ですが、夜間は飲食店に対する営業時間や酒類の提供時間の短縮の要請などの影響で、飲食店の多い川崎駅周辺における減少率が大きくなっています。

- ・川崎駅周辺……9月の約50%前後から徐々に回復し、年末には80%台へ
- ・溝の口駅周辺……80%台から90%台へ回復傾向







Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市